

守口市学校教育情報化推進計画



令和5年6月
守口市教育委員会

序論

【1】計画策定の趣旨

本市では、「郷土を誇りに思い、夢と志を持って、国際社会で主体的に行動する人の育成」の教育理念のもと、社会が急激に変化していく時代において、「生きる力」と「生涯学び続ける人」の育成をめざしています。

教育委員会では、教育理念の実現に向け、すべての児童生徒に社会の一員として必要とされる資質・能力を養うため、平成21（2009）年度から普通教室への電子黒板及び書画カメラ等のICT機器の整備を進め、ICTを効果的に活用しながら「子ども主体の授業づくり」を目指した授業改善に取り組んできました。同時に、平成25（2013）年度から教職員への校務用コンピュータ及び校務支援システムの整備を進め、ICT活用による校務の効率化を図り、教職員が児童生徒と向き合う時間の確保にも努めてきました。そして令和2（2020）年度には、GIGAスクール構想のもと児童生徒に1人1台端末を整備し、授業での活用やオンライン授業の実施等を進めているところです。

近年、Society5.0の到来や新型コロナウイルス感染症などの影響によって、社会が加速度的に変化しています。学校教育においても、社会の変化に迅速かつ的確に適応し、児童生徒が変化を前向きに受け止め主体的に行動していくことができるよう、自ら課題を見つけ、異なる考えを持つ他者と協働し、解決できる力など、学習指導要領に基づいた資質・能力の育成が一層強く求められています。そのため、児童生徒の資質・能力の育成において、ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるとともに、カリキュラム・マネジメントの取組みを一層進めることが重要です。

また、国の通信基盤の整備や国民のICTリテラシーの向上への戦略的な取組みがなされるなか、児童生徒が多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるためにも、新たな教育の創造と充実は欠かせません。

そこで、学校教育における「教育の情報化」の基本的な考え方と進むべき方向性を明らかにするとともに、教育の情報化を取り巻く国や市の経過や現状等を踏まえ、目標達成に必要な施策や事業を体系化・計画化し、具体的かつ恒常的な取組みを進めることを目的に、「守口市学校教育情報化推進計画」を策定します。

【2】計画の位置づけ

本推進計画は「学校教育の情報化の推進に関する法律」（令和元年法律第47号）第9条第2項に基づく「市町村学校教育情報化推進計画」として策定するものです。

また、本推進計画は「第6次守口市総合基本計画」や「第2次守口市教育大綱」を踏まえて策定する「めざす守口の教育」と並び、施策の推進を図るための行動計画となるものです。

【3】計画の期間

本推進計画の期間は、令和5年度から令和7年度までとします。ただし、国等の政策の見直しや社会情勢の変化等を踏まえ、必要に応じて推進計画の見直しを行います。

※ 「1人1台端末」：本市では「学習用タブレット端末」という呼称を使用します。

推進計画

実現をめざす学校像

- ① 児童生徒が自由な発想で適切に ICT やクラウドを活用し、自己調整しつつ自分に合った方法で学んだり、児童生徒同士や多様な他者と協働して学んだりしながら、学習指導要領に基づく資質・能力を身に付けています。
- ② ICT やデジタル教材等を最大限活用した個に応じた指導及び支援を行うことで、不登校、病気療養、障がい、日本語指導を要することなど配慮を必要とする児童生徒が、多様な学び方を通じて資質・能力を身に付けています。
- ③ 教職員がニーズに合った研修・マニュアル等の活用や、専門的なサポートを受けながら、ICT やクラウドを活用して指導する力を身に付け、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行っています。
- ④ 高速ネットワークや大型提示装置などの ICT 機器が整備されるとともに、情報セキュリティの確保やヘルプデスクの設置などの安全・安心な環境のもと、学校や家庭において、児童生徒が日常的にデジタル教育コンテンツや ICT を活用しながら学んでいます。
- ⑤ 適切な校務分掌による ICT 教育推進体制のもと、各種調査や学校・家庭間の連絡等のデジタル化によって、教職員が効率的に事務を進めながら、児童生徒に関わるデータを統合・分析し、個に応じた学習支援や生徒指導上の諸課題の早期発見などに生かしています。

《成果指標》

※初期値は令和4年度

	指標名	初期値	目標の方向
①	◆ICT 活用による学習意欲の向上に係る肯定的回答率〔児童生徒〕	91.5%	↑
②	◆ICT 活用による協働的な学びに係る肯定的回答率〔児童生徒〕	83.1%	↑
③	◆ICT の計画的な活用に係る肯定的回答率〔教職員〕	86.1%	↑
	★毎日の授業での ICT 活用に係る肯定的回答率〔児童生徒〕	26.4%	↑
	学校教育情報化コーディネータの配置状況	4.2校に1名	↑
④	児童生徒・授業者用タブレット端末の整備率	100%	→
	普通教室の大型提示装置・実物投影機の整備率（特別教室用含む）	100%	→
	インターネット及び無線 LAN の整備率	100%	→
⑤	総合型校務支援システムの整備率	100%	→
	★ICT 活用による校務の効率化に係る肯定的回答率〔学校長〕	77.3%	↑

※ ◆ iPad活用についてのアンケート調査（守口市）、◆ 学校における教育の情報化の実態等に関する調査（文部科学省）、★ 全国学力・学習状況調査（文部科学省）の令和4年度実施の回答状況（〔 〕は回答者）

めざす学校像の実現に向けた現状と課題

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、全国学力・学習状況調査の結果等を活用して児童生徒等の把握・分析を行いつつ、「守口市学力向上プラン」に基づいた授業改善及び自学自習力の育成に向けた取組みを進めています。ICTやクラウドを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実することやカリキュラム・マネジメントの取組みの一層の推進、日常的なICT活用に伴う情報モラルを含む情報活用能力や健康な生活を送る力の育成が課題です。

【関連】資料1：守口市学力向上プラン（R3.4～R6.3運用、R6.4改訂予定）

資料2：授業改善の推進（R4.10時点の取組み状況）

資料3：情報活用能力体系表

- ② 様々な理由によって登校できない児童生徒に対するオンラインによる授業配信や学習課題の提供、障がいのある児童生徒に対する認知機能強化トレーニング用アプリ等を活用した自立活動、日本語指導を要する児童生徒に対する翻訳アプリを活用した学習などの取組みを進めています。ICTやクラウドを最大限活用し、配慮を必要とする児童生徒により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、一人ひとりの特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことが課題です。

【関連】資料4：「オンラインによる子どもの支援」実施モデル（R3.9作成、随時更新検討）

- ③ 教職員のICT活用指導力の向上に向け、機器の操作マニュアルの作成、専門家を講師とした教職員研修の開催や校内研修への指導主事の派遣、公開授業等による先進的な実践事例の共有や学校教育情報化コーディネータの配置などの取組みを進めています。ICTやクラウドの新たな可能性を活かして「主体的・対話的で深い学び」を実現することができるよう、教職員が児童生徒とともにICTに慣れ親しみ、使いこなし、適応しながらICT活用指導力の向上を図ることが課題です。

- ④ 高速ネットワーク（無線LAN）のもと、普通教室等に整備している大型提示装置と実物投影機、児童生徒及び授業を担う教員に貸与しているタブレット端末の活用を基本として、日々の授業が進められています。通信速度の低下などによってICT活用が困難な状況にならないよう、ボトルネックへの早期対応やICTの進化に伴う計画的な環境整備・更新が課題です。

【関連】資料5：守口市の教室ICT環境整備（R3.4 1人1台端末導入時の状況）

- ⑤ 教職員1人1台の校務用パソコンを整備し、校務支援システムによる学籍や成績管理、集約型サーバによる教材など作成物の共有、クラウドによる学校間の連絡や会議開催など、デジタルの活用による校務の効率化を進めています。各種調査や学校・家庭間の連絡等のデジタル化を推進するとともに、ICT担当教職員への負担が集中しないよう、学校と教育委員会が連携したICT教育の推進体制を構築することが課題です。

主な取組み

① ICT を活用した児童生徒の資質・能力の育成

1) ICT の効果的な利活用の推進

◇広域のネットワークを活かすために、国事業のリーディング DX スクール事業、府事業のスマートスクール実現モデル校などの国や府の事業を活用し、効果的な ICT 活用の実践事例をモデル化し、市内の各学校へ横展開します。

◇ICT の効果的な利活用を促進するために、市内各学校の好事例を、学校公開、担当者研修、情報発信ツール「守口市カレッジ Box」等で発信・共有します。

◇「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向け、1人1アカウント配付によるクラウドサービスや協働学習支援ツールの利活用を推進します。

◇組織的かつ計画的に ICT やクラウドを活用した学習活動の質の向上を図るため、「守口市学力向上プラン」に基づき各学校が作成する「学力向上推進プラン」について、年2回のPDCAサイクルによる検証改善を図りながら取組みを進めます。

◇感染症や災害等による臨時休業期間においても、すべての児童生徒が学び続けられるよう、オンライン授業体験やオンライン授業の改善に向けた研究を行います。

2) 情報活用能力の育成

◇系統的かつ組織的に情報活用能力を育成するために、体系表や年間指導計画に基づき、発達段階に応じた指導を行います。

◇情報リテラシー等、情報活用能力の育成に向け、各学校の「学校図書館教育全体計画」の検証改善を図りながら、教科等において学校図書館の計画的な利活用を推進します。

◇守口市・泉南市・松原市3市とLINE みらい財団が共同開発した「SNS ノートおおさか」を活用しながら、情報リテラシー等を高めるための発達段階に応じた情報モラル教育を推進します。

3) 健康面への配慮

◇児童生徒が発達段階に合わせた適切な利用ができるよう、利用時間や有害サイト等へのアクセスの制限等、学習用タブレット端末のフィルタリング設定を行います。

◇教職員や保護者が学習用タブレット端末の使用状況を把握し助言を行いながら、児童生徒が自ら活用時間や頻度等を自己調整する力を育成します。

◇健康面への配慮を科学的な根拠に基づき行っていくため、国の調査結果等の情報収集及び発信を行います。

② 配慮を必要とする児童生徒への対応の充実

1) いじめ・不登校等への対応

◇いじめ・不登校等の未然防止及び早期発見の観点から、教職員また児童生徒同士が互いの気持ちの状態を把握しながら学校生活を送ることができるよう、毎朝、学習用タブレット端末に自分の気持ちの状態を入力し、それを共有する取組みを進めます。

◇児童生徒のSOSを把握する取組みの一環として、学習用タブレット端末の検索ワードの日常的な見守りや、長期休業期間が終了する時期のオンライン教育相談を実施します。

2) 障がいのある児童生徒の教育環境

◇個別の指導計画を作成するにあたり、個々の障がいの状態等に応じて、学びの困難さを軽減するとともに、能力を引き出すような指導が受けられるよう、ICTを活用した支援について記載します。

◇アプリやVR、デジタル教材の活用事例を障がい種別に分類整理したうえで集約し、適宜更新しながら各学校と情報共有します。

◇個々の児童生徒の学習履歴をデータ化して蓄積することにより、児童生徒が自らの学習状況を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう支援します。

3) 相当の期間学校を欠席する児童生徒に対する教育機会の確保

◇病気療養や不登校等による長期欠席児童生徒について、一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画を作成し、ICTを効果的に活用した支援を行います。

◇教室で授業を受けている児童と同様に学べるようオンラインによる授業参加を念頭に、ユニバーサルデザインの視点を重視した授業改善を進めます。

◇アプリやVR、デジタル教材の活用事例を集約し、教員とのコミュニケーションを図っている好事例について集約し発信します。

◇個々の児童生徒の学習履歴をデータ化して蓄積することにより、児童生徒が自らの学習状況を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう支援します。

4) 日本語指導が必要な児童生徒の教育

◇個別の指導計画を作成するにあたり、在籍学級で行われる教育課程によらず、個々の日本語能力に応じた日本語指導や教科指導に適したデジタル教材、多言語翻訳機器・アプリ等の活用について記載します。

◇日本語指導加配教員によるオンライン指導の充実を図り、授業中や放課後の時間帯に、グループ学習を実施することで、日本語指導が必要な児童生徒の学習機会を確保します。

◇府が実施するオンライン日本語指導の活用を促進するとともに、オンライン日本語指導の協力を得られる大学やNPO等の外部機関との連携を図ります。

③ 教職員の ICT 活用指導力の向上とサポート体制の充実

◇ICT 活用研修の実施（オンライン研修、オンデマンド研修）により、より多くの教職員の学びの場を保障します。

◇教職員が自身のスキルに応じて、必要な時に簡単に分かりやすく機器の操作方法等を確認することができるよう、動画を活用したマニュアル等の整備を充実します。

◇教職員が新たな ICT やクラウド活用に挑戦しながら授業実践を重ね、指導力の向上を図ることができるよう、授業支援や機器のトラブル対応を行う学校情報化コーディネータによる支援の充実を進めます。

◇教職員、児童生徒及び保護者が安心して ICT 機器を活用できるよう、GIGA スクール運営支援センターと連携した支援を充実します。

④ ICT を活用するための環境整備

1) 学校における ICT 活用のための環境整備

◇児童生徒が ICT やクラウドを活用し、他者と考えを共有したり、学びを広げ・深めたりする学習ができるよう、電子黒板、書画カメラ等の教室環境を引き続き整備します。

◇学習用タブレット端末・指導者用タブレット端末及びアカウントの管理を行い、端末を活用した学習環境を引き続き整備します。

◇高速ネットワーク（無線 LAN）のもとで、児童生徒が学習用タブレット端末を活用した学習を円滑に行うことができるよう、通信速度のモニタリングを行いながら必要な措置を講じます。

◇学習用タブレット端末を活用した家庭学習を促進するために、通信環境が整っていない家庭への Wi-Fi ルータの貸出しを行います。

◇ICT を活用するための環境についての検証を行いながら、計画的な機器更新等により最適な環境を維持します。

2) デジタル教育コンテンツの活用

◇国及び府の情報サイトの周知等を行い、学習用タブレット端末をはじめとする ICT 機器でのデジタル教育コンテンツの活用を促進します。

◇授業等における学習者用デジタル教科書の活用を促進するため、教科書発行者等による教職員研修を実施します。

3) 個人情報の保護・情報セキュリティ対策等

◇サーバの分離とネットワーク切り替えシステムの活用により、個人情報へのアクセスを制限します。

◇児童生徒のインターネット利用について、適切なフィルタリングをかけることにより、安全に学習上必要なコンテンツへのアクセスができるようにします。

◇「守口市教育情報ネットワーク利用のガイドライン」に基づく運用を実施するとともに、必要に応じて改訂等を行います。

5 ICT 推進体制の整備と校務の改善

1) 学習の継続的な支援等のための体制の整備

◇ICT を活用した学習活動等を推進するために必要となる環境整備や実践事例の共有を行うため、情報教育担当者等との会議を組織し、教育委員会と学校及び各学校間の連携を図ります。

◇教員の ICT 活用指導力の持続的な向上を図るため、クラウド上にすべての教職員がアクセスできる情報共有ページを設置し、ICT を効果的に活用した学習活動の実践事例や授業改善のポイント、国・府のポータルサイトや研修等の情報を年間通じて提供します。

◇学校の意欲的かつ主体的な取組みを促進するため、市長部局と密に連携し、デジタル化や教育施策の方向性の共有を図ります。

2) 情報化による校務の効率化

◇教育情報の効果的な連携が業務改善につながるよう、サーバやクラウドを活用した校務の在り方について調査研究を進めます。

◇教職員の業務量削減を図るため、教育委員会や学校が実施する各種調査や手続き等のオンライン化、ペーパーレス化を進めます。

3) 教育データの利活用

◇学習 e ポータル及び CBT システムの活用を進め、児童生徒の情報活用能力を育成しつつ、教育情報管理業務の効率化を図ります。

◇デジタル連絡ツールと校務支援システムのデータ連携による校務の効率化に取り組みます。

◇各学校のデジタル連絡ツールを基盤とした欠席情報等の市域データを、教育委員会を始めとした関係行政機関で個人情報等を排した形で共有し、市内における感染症の流行状況や、不登校傾向のいち早い把握に役立てます。また、掲示板機能の活用により、行政から家庭への連絡を迅速にするとともに、日常からデータを共有することで、行政効率の向上を図ります。

◇学校と保護者の連絡の高密度化及び迅速化並びに確実化に資するため、デジタル連絡ツールの活用を推進します。具体的には、学校からの情報発信の強化及び紙媒体の削減、アンケート機能を活用した、エビデンスに基づく学校経営方針の策定、保護者の開封率の向上、より密な地域関係者との連絡体制の構築をめざします。

令和3年度～5年度



「学びに向かう力」



「思考・判断・表現力」



「知識・技能」



「組織的な研究体制」

守口市学力向上プラン

本市では、「確かな学力」※1とともに、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康や体力」が、「生きる力」であるとの理念のもと、知・徳・体のバランスのとれた人格の完成をめざし、教育をすすめています。

全国学力・学習状況調査、市アンケート調査等より見えてきたこと※2

学力向上に向けた守口の子どもの課題

- 課題Ⅰ 学ぶ意欲の向上
- 課題Ⅱ 言語能力の育成
- 課題Ⅲ 自学自習力の育成
- 課題Ⅳ 非認知能力※3の育成

達成目標 <何ができるようになるか>

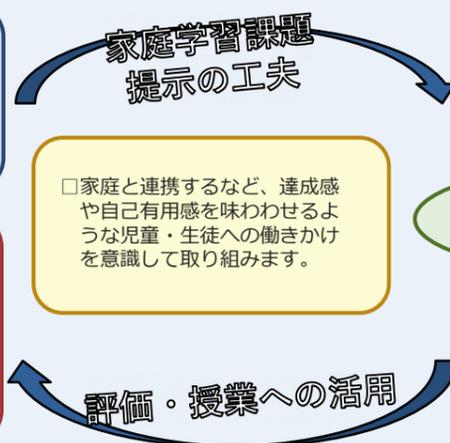
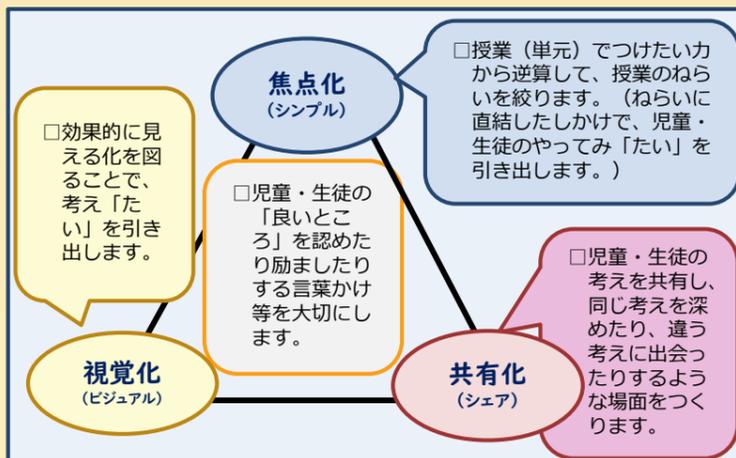
- ◆学習規律を身に付け主体的に学習する力を身に付ける。
- ◆課題に対して、意欲をもって取り組むことができる。
- ◆授業の中で思考し、他者とのつながりの中で、考えを深めることができる。
- ◆考えたこと・思ったことなどを、整理しながら読んだり、分かりやすく書いたり伝えたりすることができる。
- ◆家庭で自主的・計画的に学習する習慣を身に付ける。
- ◆読書に親しむ習慣を身に付ける。

学校の取組み

誰一人取り残さず、**すべての児童・生徒の確かな学びを保障**するために、**組織的な研究体制**のもと行う「**授業改善の推進**」・「**自学自習力の育成**」を2本柱として、**9年間を見通した**取組みを推進していきます！

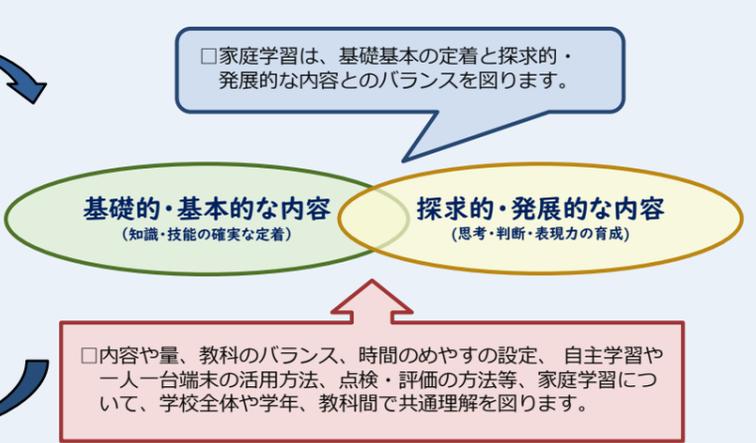
授業改善の推進

『主体的・対話的で深い学び』の実現
～すべての児童・生徒にとって、「わかる」「できる」授業づくり～



自学自習力の育成

学びに向かう力の育成に向けた家庭学習の充実
～知識・技能の定着、応用力・活用力の育成に向けた指導～



- ①すべての授業で「授業のユニバーサルデザイン」の3つの視点を取り入れます
- ②学校図書館の計画的な利活用をすすめます
- ③日々の授業の点検・改善機能を充実させます

- ①授業との連続性を意識した系統的な家庭学習課題を設定します
- ②読書習慣の定着を図ります
- ③日々の家庭学習の点検機能を確立します
- ④放課後等における学習会を開催します

2本柱を促進させるため ICT機器を効果的に活用します

1. 授業改善の推進

- 一人一台タブレット端末等のICT機器を効果的に活用した指導
- 学習履歴等を蓄積し分析を踏まえた、授業へのフィードバック
- 協働支援ツールを活用した、多様な考え方を生み出す課題解決学習の推進
- デジタル教科書等のデジタル教材の活用等

2. 自学自習力の育成

- AIDリルやオンライン授業等を活用した学習
- 読み上げ機能等のデジタル教材を活用した、個別最適化された主体的な学習

3. 調査

- 一人一台タブレット端末を活用した、アンケート等によるきめ細やかな状況把握等



2本柱を促進させるため 児童・生徒個別の状況を把握し、分析します

「学習につまずきのある子ども」及び「非認知能力※3が低い子ども」等の把握・分析を組織的に行い、取組みの改善につなげます。



※1 「確かな学力」の3つの要素(「学校教育法」より)

- ◆基礎的な知識・技能
- ◆知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力
- ◆学習に取り組む意欲

育成をめざす『資質・能力』(「学習指導要領解説」より)

- ◆生きて働く「知識・技能」
- ◆未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」
- ◆「学びに向かう力・人間性等」

※2 全国学力・学習状況調査・市アンケート調査等より見えてきたこと

- ◆授業改善や学習規律の育成に向けた取り組みは進んでいるが、引き続き必要である。
- ◆授業で学習した内容を普段の生活の中で活用しようとする子どもの割合が低い。
- ◆文章の構成や内容を捉え、自分の考えを明確にしながらかくむ力に課題がある。
- ◆与えられた条件に合わせて、理由や考えを整理して書く力に課題がある。
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力に課題がある。
- ◆話し合う活動で考えを深めたり広げたりすることができている子どもの割合が低い。
- ◆漢字の習得に課題がある。
- ◆知識・技能を活用して思考・判断・表現する力に課題がある。
- ◆家で自主的に学習する習慣や読書習慣に課題がある。
- ◆「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答する子どもの割合が低い。

※3 非認知能力

テストでは測ることができない力のことで、粘り強く課題に挑戦する力(頑張る力・自己抑制・目標への情熱)、気持ちをコントロールする力(自尊心・楽観性・自信)、人と協調して取り組む力(社交性・敬意・思いやり)などがある。

※4【教育委員会の支援】

- ◆学力向上推進教員会議の開催
- ◆教職員研修の開催
- ◆校内研究支援、初任期教員・講師に対する授業支援
- ◆効果的な取り組みの紹介
- ◆デジタル教科書の整備
- ◆ICT機器(タブレットPC等)の整備と支援
- ◆少人数指導・補充学習を行う市費教員の配置
- ◆土曜日学習・放課後等学習支援事業(小・中学校等での民間活力を活用した学習機会の提供)
- ◆学校司書の配置
- ◆スクール・サポート・スタッフの配置
- ◆部活動指導員の配置

※5【学校運営協議会との連携】 ～「社会に開かれた教育課程」の 実現に向けた取り組み～

- ◆教育課程の改善に向けた意見
→出前授業の促進や地域人材の紹介
- ◆学校運営に関する評価
→学校が作成する「学力向上推進プラン」等
- ◆保護者・地域住民等による学校支援活動の促進
→学校支援ボランティアの募集と積極的な情報提供

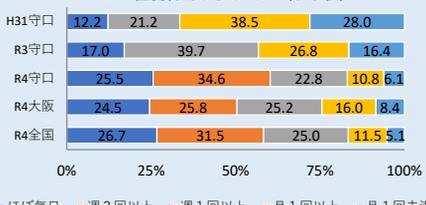
※6【家庭・地域との協働】

- ◆規則正しい生活リズムの確立
→あいさつ、早寝・早起き・朝ご飯、運動、身の回りの整理整頓等
- ◆各家庭での児童・生徒への励まし
→学校生活についての言葉かけや読み聞かせ等の実施
- ◆学校支援活動による協働
→地域のボランティアによる、授業支援・学習支援体制づくり
- ◆PTA・地域諸団体との連携強化
→生活習慣育成に向けた取り組み
- ◆提携大学・企業等との連携
→多様な人材を活用した教育活動の充実

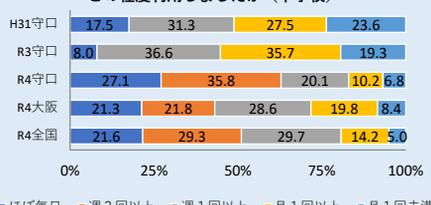
GIGAスクール構想により、守口市でも令和2年1月に市立学校全児童生徒へのiPad整備を完了させました。その間、ICTの活用がどのように進み、成果や課題等を踏まえ、今後の授業改善の推進におけるICTの活用についての取組み等を、全国学力・学習状況調査の結果等をもとに以下にお示しします。

活 用 頻 度

授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度利用しましたか（小学校）



授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度利用しましたか（中学校）



「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度利用しましたか」にほぼ毎日または週3回以上と回答をした割合は、小学校60.1%（全国58.2%）、中学校62.9%（同50.9%）であり、小・中学校ともに全国平均を上回り、**授業の中で一人一台端末を利用する機会が確保**されている。週1回以上使用したと回答した割合も調査開始年度と比べ増加傾向がうかがえ、端末の導入に加え、**授業での端末の活用が着実に進んでいる。**

※平成31年度・令和3年度においては、「ほぼ毎日」「週1回以上」「月1回以上」「月1回未満」の選択肢であったため「週3回以上」と回答した児童生徒がない。

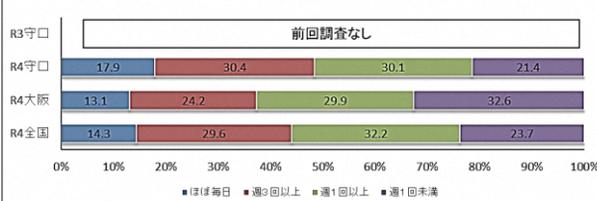
【小学校】

【中学校】

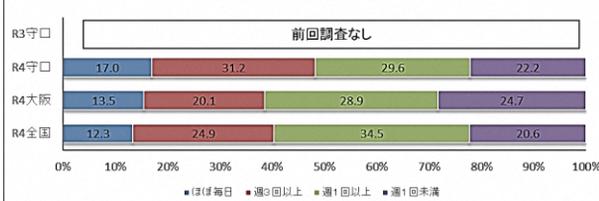
活 用 場 面

調 べ る

学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

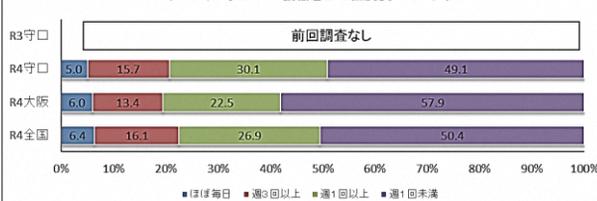


学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

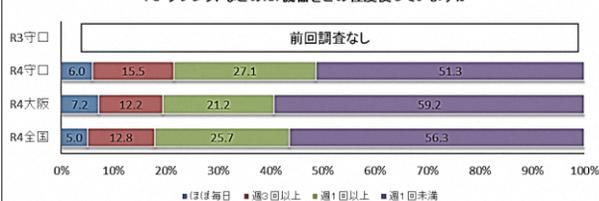


意 見 交 換

学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

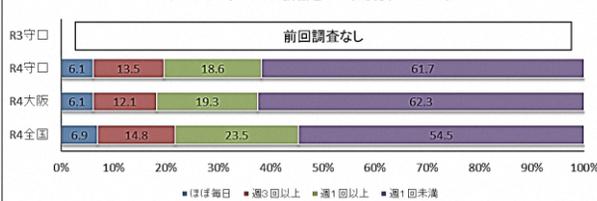


学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか

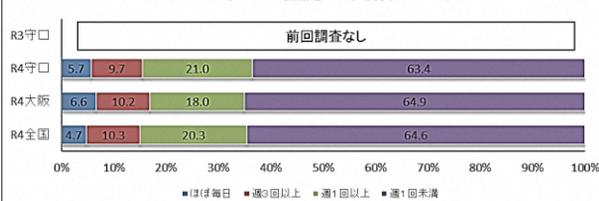


ま と め、 発 表

学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか



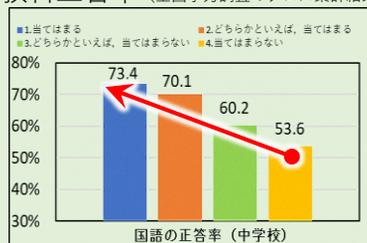
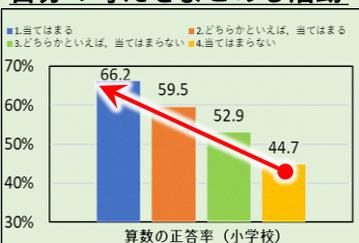
学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか



活用場面は調べる場面での活用が多く（週3回以上と回答した割合は約50%）、意見交換やまとめ、発表する場面になると活用頻度は低くなり（週3回以上と回答した割合は約20%）、全国と同様の傾向で、**思考・判断・表現力等を発揮させる場面での活用**を充実させていくことが今後の課題である。この傾向については令和3年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」でも同様の傾向であった。

『アウトプット場面の充実』と『教科の正答率』の相関関係

自分の考えをまとめる活動 — 教科正答率（全国学力調査のクロス集計結果より）



「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」で肯定的に回答している児童生徒ほど、教科の問題の正答率が高い傾向があり、自分の考えをまとめる活動等、**アウトプット場面の充実させていくことが学力向上においては大切**であると考えられる。

今 後 の 取 組 み

ICTを活用することで、学んだことをアウトプットする手段は格段に増える。今後についても、引き続き、授業改善のツールの一つとして、対話・アウトプット場面等で自分の考えをまとめるために、プレゼン資料、レポート、リーフレット、新聞、動画、アニメーションを作成するなど、**思考・判断・表現力を発揮させる場面でのICT活用について充実**させていくことが重要。また、定期的なアンケート調査や学習履歴の分析等によるきめ細やかな個別の状況把握も進めていき、授業改善や自学自習力の育成に向けた組織的な取組みへつなげていく。

「オンラインによる子どもの支援」 実施モデル



令和3年9月 守口市教育委員会

この冊子は、やむを得ず学校に登校できない子どもに対して、すべての先生方がオンラインによる学習支援を円滑に行うことができるよう、『「オンラインによる子どもの支援実施モデル」作成ワーキング会議』を開催し、各校で実際にオンライン授業等を経験された先生方から出された意見や実施する際のポイント等をもとに、ひとつのモデルとしてまとめたものです。

(はじめに) オンラインによる子どもの支援の考え方

非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒に対する学習指導の考え方

新型コロナウイルス感染症等の影響により、学校が一定期間の臨時休業となる場合や、濃厚接触者として児童生徒が長期にわたる出席停止となる場合には、すべての児童生徒の学びの保障や心のケア等に取り組みます。

オンライン学習・オンライン授業の考え方

「児童生徒の学びを止めない」、「心のケア」を目的として、これまで行ってきた家庭訪問や学習プリントの配付等に加えて、オンラインによる学習を実施します。

オンライン授業

インターネットを利用した、授業の配信

オンライン学習

インターネット接続を前提とした、学習用タブレット端末等を利用して行う学習

(1) 学校としての共通認識

オンライン授業の実施方針を事前に話し合い、全教職員で共有します。

学校としてどの子どもにも支援が届く仕組みにしておくことで、子どもも保護者も安心できます。

1 学校内の共有事項

- オンライン授業ができる体制づくり
- 実施に向けた保護者・児童生徒への周知
- 2～4の内容

2 本人と保護者との約束ごと〔個別対応のとき〕

- オンライン授業での発言など参加のしかた
- 接続する時間帯や教科
- 課題の受け渡しのしかた
- 配信内容の二次利用の禁止

3 学級への指導〔個別対応・一斉授業とも〕

- 授業の配信をする意義
- 欠席児童生徒への学級としてのかかわり方
- 情報モラル

4 接続する時間帯〔一斉授業のとき〕

- 朝の会
- 終わりの会
- 午前の授業
- 午後の授業
- 昼休み
- 休み時間
- 放課後

〔もっとくわしく…〕

- 対象になるすべての子どもに、すべての学級でオンライン授業をします
- 平時から学校だよりでオンライン授業実施を周知します
- 平時からオンライン会議システムの使用を指導します
- 平時からオンラインでの課題の受け渡しをします

〔もっとくわしく…〕

- カメラはオン／オフで参加します
- 1日〇時間／〇の教科で参加します
- 課題は Teams で受け取ります
- プリント課題等はポスティング／家庭訪問で受け取ります



キーワード

〔子どもたちへ〕
子どもにとってよいものを
子どもの自立を
つながっている実感を

〔先生たちへ〕
学校として共有を
先生同士が必要なサポートを

学校全体で共通して取り組むこと、目標や意義を共有して進めることが大切です。
上の内容をすべて行うのではなく、学校や子どもの実態に合わせて決めていきます。

(2) 重点目標と支援例

「何のために」を明確にして支援を検討します。

非常時にやむを得ず学校に登校できない児童生徒へ、オンラインを活用したこんな支援ができるかもしれません。

重点目標		目的	オンライン支援例
からだの健康	1	生活リズムを整える	出欠確認(健康観察)「はい！元気です！」 チャットで報告
	2	体力を維持する	体育科授業の準備体操にオンラインで参加
こころの健康	3	登校できないことへの不安を軽減する	オンライン面談(担任・養護教諭など)
	4	健康への不安を軽減する	ウェブアンケートに相談コーナー設置
	5	目標をもち安定した生活を送る	学習スケジュール(長期)の提示 時間割(当日・翌日)の提示
学習	6	学級の進度に合わせて学習する	オンライン学習・オンライン授業
	7	家庭学習をする	成果物をTeamsで提出
	8	読書をする	オンラインHRで感想スピーチ 読書記録・カードの提出
帰属感	9	クラスに居場所をもつ	授業でのリアクション 朝の会・終わりの会にオンラインで参加 係・委員会の仕事でリモートワーク
	10	友達とつながる	教室の友達とのオンライン会話(休み時間や放課後)

子どもに合ったものを選んだり、例をヒントに新たに考えたり…。
「何のために」を意識して、ひとつでもふたつでも取り入れたいものです。

具体的な方法は次のページへ…。

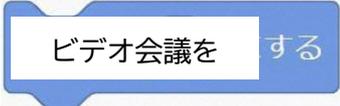
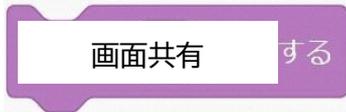


(3) オンライン学習・オンライン授業の具体的な取り組み

オンライン学習・オンライン授業のモデルを紹介します。

キーワードは、「ビデオ会議」「データを送る」「画面共有」「提出」「一覧表示」の5つです。

この5つの組み合わせで、学級の実態に合わせたオンライン授業をデザインしてみましょう！

	使用アプリ	授業の流れ(●先生・○子ども)・留意点	授業づくりの意図
授業前			
	Zoom	<ul style="list-style-type: none"> ●カメラ・端末の設置 黒板と電子黒板を映せる画角に調整する。 子どもの机・椅子／三脚に端末を固定する。 ●接続の確認 授業終了まで接続しておく。 	
			
	オクリンク Teams	<ul style="list-style-type: none"> ●使用するプリント・資料等の配付 オクリンク…カード(図や写真を添付)で送る。 Teams…Word等のファイルで送る。 	事前準備があることで、安心して参加できます。
導入			
	Zoom	<ul style="list-style-type: none"> ●画面共有機能でスライド表示 授業の流れ、学習課題を共有する。 	
			
	オクリンク	<ul style="list-style-type: none"> ○「自分の意見」の提出 選択肢やキーワードをカードに記入して提出する。 	全員が参加でき、かつ瞬時に意見を集約できます。
展開			
	オクリンク	<ul style="list-style-type: none"> ●「提出 BOX」内を一覧表示 学級全体の意見交換をもとに課題に取り組みさせる。 	自分の意見と比較して思考を深められるよう、考える視点を共有します。

展開	<p style="text-align: center;">提出 する</p> <p>オクリンク ○「課題」の提出 Teams [オクリンク…カード(文章や記入したノートを撮った写真を添付)を提出【提出 BOX】 Teams… Word 等のファイルを提出【指定されたチャンネル】]</p>	<p>「提出 BOX」の中を見ることができるので、早く進む子は友だちとの比較を、ゆっくり進む子は考えるヒントをもらえます。</p>
まとめ	<p style="text-align: center;">画面共有 する</p> <p>オクリンク ●選択したカードの表示 提出されたカードから共有したいものを選んで表示する。</p> <p style="text-align: center;">提出 する</p> <p>オクリンク ○「振り返り」の提出 Teams [オクリンク…カード(文章や記入したノートを撮った写真を添付)を提出【提出 BOX】 Teams… Word 等のファイルを提出【指定されたチャンネル】]</p> <p style="text-align: center;">ビデオ会議を する</p> <p>Zoom ○音声による発表 Zoom の音声通話で意見を発表する。</p>	<p>書く活動、話す活動を取り入れて、学んだことを共有します。</p>
授業後	<p style="text-align: center;">ビデオ会議を する</p> <p>Zoom ●○音声による会話 Zoom の音声通話で、オンラインで参加した子どもたちの個別の質問に答える。次の学習の連絡などを行う。</p>	<p>オンラインで参加した子どもたちの理解度を踏まえ、次の授業案作成に生かします。</p>

これまで取り組んできた授業のユニバーサルデザインの視点を大切にしながら組み立てましょう。

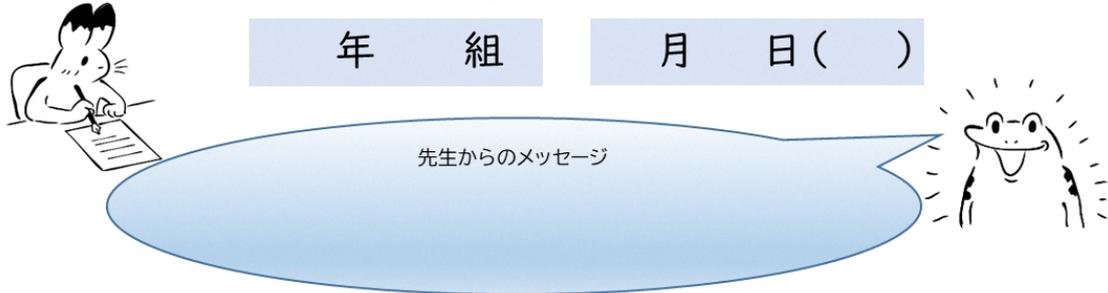
(4) 臨時休業中の時間割例

そのまま使っても…、カスタマイズしても…。

迷ったときは無理をせず、こんな形でやってみてください。

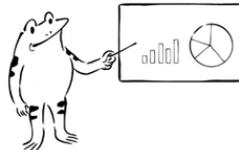
手書きで書きこんで職員室に貼り出したり、子どもたちに見せたり。情報共有にも使えます。

臨時休業中のオンライン授業（案）



	8:45	9:00	9:45	11:00	11:45	1:00	2:00	2:15	2:30
先生	()	()	()		()			()	()
教科			()	()	()		()		
時間割	接続準備	H朝のR会	オンライン授業①	家庭学習①	オンライン授業②	昼食	家庭学習②	自由参加 オンラインミーティング	終わりの会 H・Rの会
使用アプリ		Teams	Zoom ミライシード		Zoom ミライシード			Teams	Teams

【機能】ビデオ通話／チャット／投稿
【やること】スケジュール配布
・家庭学習課題配布または指示



【機能】ビデオ通話
【やること】先生のお話・読み聞かせ
・フリートーク

【機能】ビデオ通話／投稿
【やること】スケジュール配布
・家庭学習課題配布または指示
・本日の課題提出の指示

メモ

～データ使用量について（Zoomの場合）～

小さい ①音声のみ<②映像あり<③スライド画面共有 **大きい**

1か月の臨時休業を想定したとき、

1日最大1.5時間の接続がめやす

(20GB/月で契約している場合)

計算すると…1.5時間/日 × 20日 = 30時間

(Zoomのビデオ通話10分あたり約100MB消費します。)

このめやすは、「臨時休業が1か月続く」「月に20GBまで」という条件下で計算したものです。家庭のWi-Fi契約状況によっては、このような配慮が必要です。

オンライン授業を必要とする日数が20日未満のときや家庭のWi-Fi契約状況によっては、1日の接続時間を増やせます。

(5) 基礎的な環境整備

子どもにも先生にもできるだけストレスなく、スムーズな接続ができるよう、環境を整えます。

基本的にはこのような環境でオンライン学習・オンライン授業を行ってください。

ホスト機

①☑ホスト機の PC 等はアップデートが完了している。

→ホスト機が最新の状態でないと、PC 等の動きが遅くなりミーティング中の映像や音声途切れる等の不具合が起こる場合があります。

特に、電子黒板をホスト機にしたときの不具合は、アップデートが完了していないことが原因の一つとしてあがっています。一日の終わりに教室を施錠する際は、電子黒板のモニターだけでなく PC の電源を切ってください。

②☑ホスト機内の不要なデータは削除されている。

→①と同様に、PC 等の動きが遅くなるとミーティング中の映像や音声途切れる等の不具合の発生につながる場合があります。

デスクトップ等のデータは削除し、共有フォルダに保存しましょう。

③☑電子黒板と書画カメラが正常に接続されている。

→電子黒板と書画カメラの接続ミスが見られます。書画カメラのスイッチを意図せずに触れてしまったことが考えられます。

普段の授業の様子を配信するときは、Windows タブレット PC や iPad の予備端末をホスト機にする方が、不具合が少ないと考えられます。

ミーティングルームの設定

④☑参加人数の設定は1クラス単位になっている。

→映像等の不具合の発生の可能性を下げるため、ミーティングは1クラス単位で実施しましょう。ホスト機側のデータ処理にかかる負荷だけでなく、児童生徒の通信環境への負荷も考慮し、1クラス単位が望ましいです。

学年で同一の内容を配信したい場合でも、ホスト機を複数台用意するなど、1 ミーティングルームあたり1クラス単位での参加となるよう設定してください。



ミーティング中の操作

⑤ 動画等を配信する場合は、児童生徒のビデオの停止を行う。

→児童生徒のビデオを停止すると通信の負荷を下げることができます。

⑥ チャット機能を活用する。

→児童生徒からの出席報告や発言を受け付けるときはチャット機能を使えます。音声の不具合があるときも活用できます。

⑦ 児童生徒への指示の出し方を複数用意する。

→音声と並行して、テキストベースで(画面共有もしくは紙などで)示すと伝わりやすくなります。Teams・ミライシードなども活用すると、児童生徒が後からでも参照できます。

児童生徒との確認事項

⑧ 接続がうまくいかない場合について、事前に児童生徒と確認している。

→万一接続がうまくいかない場合、児童生徒がどう行動すればよいか、事前に確認しておきましょう。例えば、「なかなか入室が完了しない場合は、一度退室して再度入室する」「ミーティング中にホスト機側のトラブルでホストが退出してしまっても、ミーティングルームから退室せずに、ホストの再入室を待つ。」「何度試しても入室できない場合は、クラスの Teams で担任に状況を報告する」等の方法を確認しておく、スムーズな対応につながります。



「オンラインによる子どもの支援」実施モデル

令和3年9月30日

守口市『オンラインによる子どもの支援実施モデル』作成ワーキング会議
守口市教育委員会

守口市の教育 ICT 環境整備

教室の ICT 環境 編



Office 365



学習共有フォルダ

センターサーバ

校務用 PC (職員室)

学習教材は校務用 PC で作成後
センターサーバで共有

教材は「学習共有フォルダ」を利用
して校務用 PC から共有

学習共有と接続可能

提示装置用 PC

大型提示装置

大型提示装置を使って、デジタル教材や書画カメラの映像を表示することができる。協働学習支援ツールにより、児童生徒の意見を比較表示させたり、一覧表示をさせたり日常的に活用がされている。60～65インチモニタ設置。

授業支援ソフト (xSync: エルモやミライシード: ベネッセ) で電子黒板、iPad を連携させた協働学習が可能

無線 AP

全ての教室に無線 Wifi

Apple TV

iPad の画面をミラーリングして大型提示装置に映し出します。iPad を使っての発表や資料提示に役立ちます。

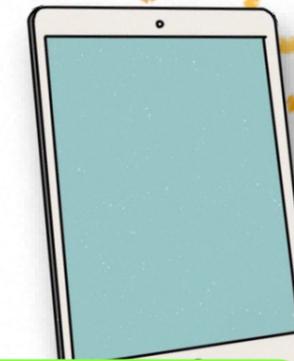


書画カメラ

児童生徒のノートを映し出したり、教材の提示に利用することが可能。オンライン授業時には Web カメラとなる

学習者用 iPad

外付けキーボード



xSync
Classroom